

令和7年度 全国学力・学習状況調査の分析及び結果

我孫子市立布佐小学校

「教科」に関する調査について

国語

- 知識及び技能の「言葉の特徴や使い方に関する事項」・「情報の扱い方に関する事項」において全国平均を下回っていた。「我が国の言語文化に関する事項」においては概ね平均値に達している。
- 思考力、判断力、表現力等の「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の全ての項目において全国平均を下回っていたが、過去3年間ポイントは上昇傾向にある。問題形式においては、昨年同様、短答式・記述式に苦手意識があり、要旨をつかんで解答することに課題が見られた。

☆調査結果からの今後の取組について☆

◎資料を読んだり話を聞いたりしながら、内容を捉え、自分の考えをまとめる。

- ・学習場面で、「伝える」「発表する」等の対話的活動を増やす。
- ・話し手の目的や意図を考えて聞く機会を設け、要旨を理解する力を伸ばす。
- ・読書や作文活動を通して、文章の構成力や作成力の向上を図る。
- ・ICTを活用しながら「個別最適な学び」「協働的な学び」を推進していく。
→他者との関わりの中で、相互評価をしたり、認め合ったりする経験を増やす。

◎言葉の使い方や特徴、情報の扱い方等の基礎知識を習得する。

- ・モジュールの時間を有効活用し、基礎学力の向上を目指す。
- ・「家庭学習のすすめ」を活用した系統的な指導をする。

算数

- 全体的に全国平均を下回っている。
- 「測定」の領域では、全国平均を大きく下回っている。
- 問題形式においては、記述形式に苦手意識があり、答えの求め方や自分の考え等を文章で表すことに課題が見られた。

☆調査結果からの今後の取組について☆

◎自他の考えを整理して説明したり、文章で表したりすることができる。

- ・学習場面で、「伝える」「発表する」等の対話的活動を増やす。
- ・類題に取り組みながら、文章問題の意図を明確に掴む。
- ・ICTを活用しながら、「個別最適な学び」「協働的な学び」を推進していく。
→他者との関わりの中で、相互評価をしたり、認め合ったりする経験を増やす。

◎量感を養うことで、単位の理解を促していく。

- ・日常生活場面（買い物、料理、遊び等）を想起しながら、数の表し方やその量について意欲的に取り組むことができるようにする。

◎基礎基本の定着を図る。

- ・単元復習日を活用し、苦手な単元を重点的に復習する。
- ・「家庭学習のすすめ」を活用した系統的な指導をする。

理科

○全体的に平均を下回っているが、どの項目も平均値から大きく下がっている項目がないことから基礎的な理解は見られる。

○「記述式」の問いについては、国語・算数同様に正答率が低く、苦手意識があると考えられる。

☆調査結果からの今後の取組について☆

◎思考を整理し、分かったことを自分の言葉で書くことができる。

- ・自然現象や物理現象等、身近に起こる事象について触れる機会を持つ。
- ・予想→実験→考察→疑問の流れを掴み、興味を持って学習に臨む態度を育てる。

～児童に対する質問紙調査結果より～

○教科への関心・意欲・態度

- ・「国語の勉強は好きか」という問いに対して「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童は、全国の調査結果とほぼ同程度であった。「国語の授業は大切」と回答した児童は9割程度であった。
- ・「算数の勉強は好きか」という問いに対して「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童は、全国の調査結果を上回った。一方で「当てはまらない」と回答した児童も多く、二極化している。「算数の勉強は大切」と回答した児童は9割程度であった。
- ・「理科の勉強は好きか」という問いに対して「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童は、全国の調査結果とほぼ同程度であった。「理科の授業は大切」と回答した児童は全国の調査結果を下回っており、学習への動機付けが必要だと考える。

○家庭学習や生活習慣

- ・家庭学習時間は、平日および休日ともに1時間以上の児童が半数以上を占めており、昨年度からポイントが上昇している。
- ・睡眠時間は概ね確保されているようだが、「朝食を食べていない」と回答した児童の割合は全国の調査結果よりも多い。
- ・授業時間以外に勉強のためにICT機器を使っている時間は、全国の調査結果とほぼ同程度であった。しかし、ゲームや動画視聴等の時間も長く、1日の生活習慣に課題が見られる。情報モラル教育等を通して、機器の適切な扱い方について、改めて確認していく必要がある。

○規範意識や自己有用感

- ・「将来の夢や目標を持っている」「人の役に立つ人間になりたい」という問いに対して「当てはまる」と回答した児童は、全国の調査結果と比べやや高かった。布佐カリキュラムにおける地域学習やキャリア教育等を通して、さらなる意欲の向上を目指していきたい。